石神遺跡の調査（飛鳥藤原第116次）

石神遺跡は、斉明朝（655～661年）のころに異国や辺境の民への饗宴をおこなったり、客館として機能した場所と考えられています。現在、飛鳥資料館に展示している石人像と須弥山石は、明治時代にこの遺跡から掘り出されたものです。

調査は7月からはじまり、およそ5カ月かかってようやく終了しました。発掘した面積は約500㎡ですが、遺構が複雑に重なりあっているので、ひじょうに手間がかかります。

今回の調査では、斉明朝の石神遺跡の北を区画する施設がみつかりました。調査区を横断する東西の掘立柱塀と、それに並行する石組みの水路です。また、この水路とT字形に接続する南北の水路も2条あり、いずれも石で護岸されています。さらに、いくつかの掘立柱建物のほか、時期の違う遺構も確認しています。

これらの遺構をご覧いただくために、現地説明会を10月6日に開催しました。新聞・テレビで報道されたこともあって、参加者約600人と盛況でした。

調査終了後、現地は水田に戻っています。

石神遺跡の全景と調査区（北から）